

研究概要説明



1. 研究テーマについて
2. 第十一次研究の取組



1. 研究テーマについて

第十次研究(R4～R6)の研究内容

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

1. 研究テーマについて

第十次研究(R4～R6)の研究生産物

学習指導要領の三つの柱の考え方に基づいた
授業づくりの手順と条件

大分大学教育学部附属特別支援学校

令和6年 1月24日(水)版

1. 研究テーマについて

第十次研究(R4～R6)の研究生産物

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか
②指導内容を身につける必要性やよさを感ずることができているか
③1つの教材でグループの児童生徒全員に指導内容を扱うことができるか
④興味・関心をもてるか

【算数・数学】小学部／中学部／高等部 中段階

手順		条件及び視点		取り組みに当たって						
① 指導領域の前題材までの到達状況から「知識及び技能」を列挙する	② 列挙した「知識及び技能」を段階化する	③ 段階化した「知識及び技能」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する	④ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の指導のために内容を細分化する	⑤ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一例を指導内容表の項目として、児童生徒の実態を把握する	⑥ 「知識及び技能」の指導の計画を立てる	⑦ 「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる	⑧ 「教材」の仕組みを決定する	⑨ 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる	○ 個別の指導計画の作成及び学習指導要領対応版チェックリストの到達状況から、学習指導要領の段階及び内容を決める	
									○ 「知識及び技能」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「知識及び技能」の内容を具体化する	
									○ 在籍する児童生徒の中で、段階が最も低い児童生徒が到達しているところから段階が最も高い児童生徒が1題材で到達できそうなところまでの全ての「知識及び技能」を挙げる ※同じ領域でも、指導内容が異なる場合は、指導内容ごとに「知識及び技能」を挙げる	
									○ この段階で「教材」を大まかに検討し、「教材」の学習活動の中での「知識及び技能」の「できた姿」を想定して、その姿に必要な領域の「知識及び技能」を挙げる	
									○ 「知識及び技能」を系統的に習得できるように、列挙した「知識及び技能」を易→難の順に配列する	
② 在籍する児童生徒それぞれの学びの傾向等を考慮し、1題材で到達できるところまでを範囲とする	③ 手順3までに具体化、段階化した学習指導要領の「知識及び技能」の内容を基に、題材終了時の児童生徒の「できた姿」を具体的に設定した上で行う	④ 題材終了までの条件と同じ条件を設定して実態を把握する	⑤ 「教材」に興味・関心を持ち、「教材」の仕組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、題材の中で取り組む「知識及び技能」を習得したり、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、二次の最後の時間までできるようにした課題に取り組む段階を「三次」と捉えて計画する	⑥ 「知識及び技能」の実態把握の結果を基にして、「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてを設定するために、その時間の「できた姿」と「場面」を具体的に設定した後に「わかること」を設定する	⑦ 「知識及び技能」の題材における最後の時間のめあてに必要な「できた姿」と「場面」「わかること」を挙げ、段階化して配列する	⑧ 「知識及び技能」の内容を指導するための具体化した「教材」を設定する	○ 「知識及び技能」の「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対する「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画する	○ 「思考力・判断力・表現力等」の1時間ごとのめあてを設定する際は、「表出像」を具体化し、それらを引き出すための「具体的状況」と「未知の課題」を検討する	○ 「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、1時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい	
										○ 手順6で設定した「教材」を見直し、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する
										○ 場面設定、活動の順序、活動に必要な準備物、活動の動線、正誤判断の仕方などの「教材」の仕組みを具体化し、決定する
										○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ7つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る
										○ 「わかること」を設定する際は、児童生徒の学びの傾向に応じて、以下に示す段階の①と②の中から適切なものを設定する
③ 「～に目を向け」…ヒントを手がかりにする段階	④ 「～がわかり」…理解する段階	⑤ 「～に気づき」…義に理解していることから、新しいことを理解する段階	○ 「具体的状況」と「未知の課題」を具体化する際は、学習指導要領の内容の文言や学習指導要領の段階と同段階の小学校の教科書を参考にするとよい							

【目的をもつ7つの子ども像】		設定する段階と目安となる題材の位置		設定する学習活動					
		低段階	中段階	高段階	導入	展開	発展	終末	
①達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども		二次半ば 三次	二次全般		○	○	○	◎	
②できるようになったことを持続しようとする子ども		二次の最後～三次			—	◎		—	
③意欲をもち、自分から取り組む子ども		二次前半		—	○	◎	◎	—	
④見過しをもち、続けて最後まで取り組む子ども		二次前半 二次半ば	二次前半	—	—	◎	◎	○	
⑤目標をもち、粘り強く取り組む子ども		—	二次全般	二次前半	—	◎	◎	—	
⑥友だちと学び合う子ども		—	二次全般		○	◎	◎	○	
⑦自分で工夫し、発展していく子ども		—	二次全般と三次		—	○	◎	—	

1. 研究テーマについて

第十次研究(R4～R6)で明らかになったこと

「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

- ①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面が設定できるものか
- ②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか
- ③1つの教材でグループの生徒全員の指導内容を扱うことができるか
- ④興味・関心をもてるか

【調査表】「教材」の検討（指導内容・教材）	
検討項目	検討内容
1. 指導内容の検討	1-1. 指導内容の検討（指導内容） 1-2. 指導内容の検討（教材）
2. 教材の検討	2-1. 教材の検討（教材） 2-2. 教材の検討（指導内容）
3. 教材の検討（教材）	3-1. 教材の検討（教材） 3-2. 教材の検討（指導内容）
4. 教材の検討（指導内容）	4-1. 教材の検討（指導内容） 4-2. 教材の検討（教材）
5. 教材の検討（教材）	5-1. 教材の検討（教材） 5-2. 教材の検討（指導内容）
6. 教材の検討（指導内容）	6-1. 教材の検討（指導内容） 6-2. 教材の検討（教材）
7. 教材の検討（教材）	7-1. 教材の検討（教材） 7-2. 教材の検討（指導内容）
8. 教材の検討（指導内容）	8-1. 教材の検討（指導内容） 8-2. 教材の検討（教材）
9. 教材の検討（教材）	9-1. 教材の検討（教材） 9-2. 教材の検討（指導内容）
10. 教材の検討（指導内容）	10-1. 教材の検討（指導内容） 10-2. 教材の検討（教材）

知識及び技能の習得や
思考力・判断力・表現力等を
養うための**主体的な姿**を
引き出すために重要な視点
と順序

1. 研究テーマについて

R6年度までの各教科の内容の扱い方のイメージ図

教科別の指導



生活に必要な内容の具体化



教材の設定



授業実践

「生きる力」

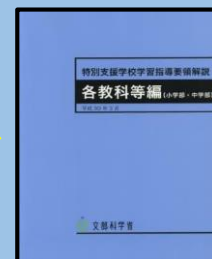
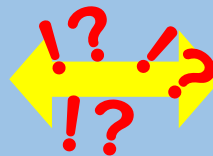
各教科等を合わせた指導



子どもの生活(教材)



活動(教材)の 具体化・組織化



1. 研究テーマについて

第十一次研究における各教科の内容の扱い方のイメージ図

教科別の指導



生活に必要な内容の具体化



教材の設定



授業実践

「生きる力」

各教科等を合わせた指導



子どもの生活(教材)



活動(教材)の具体化・組織化



内容の明確化

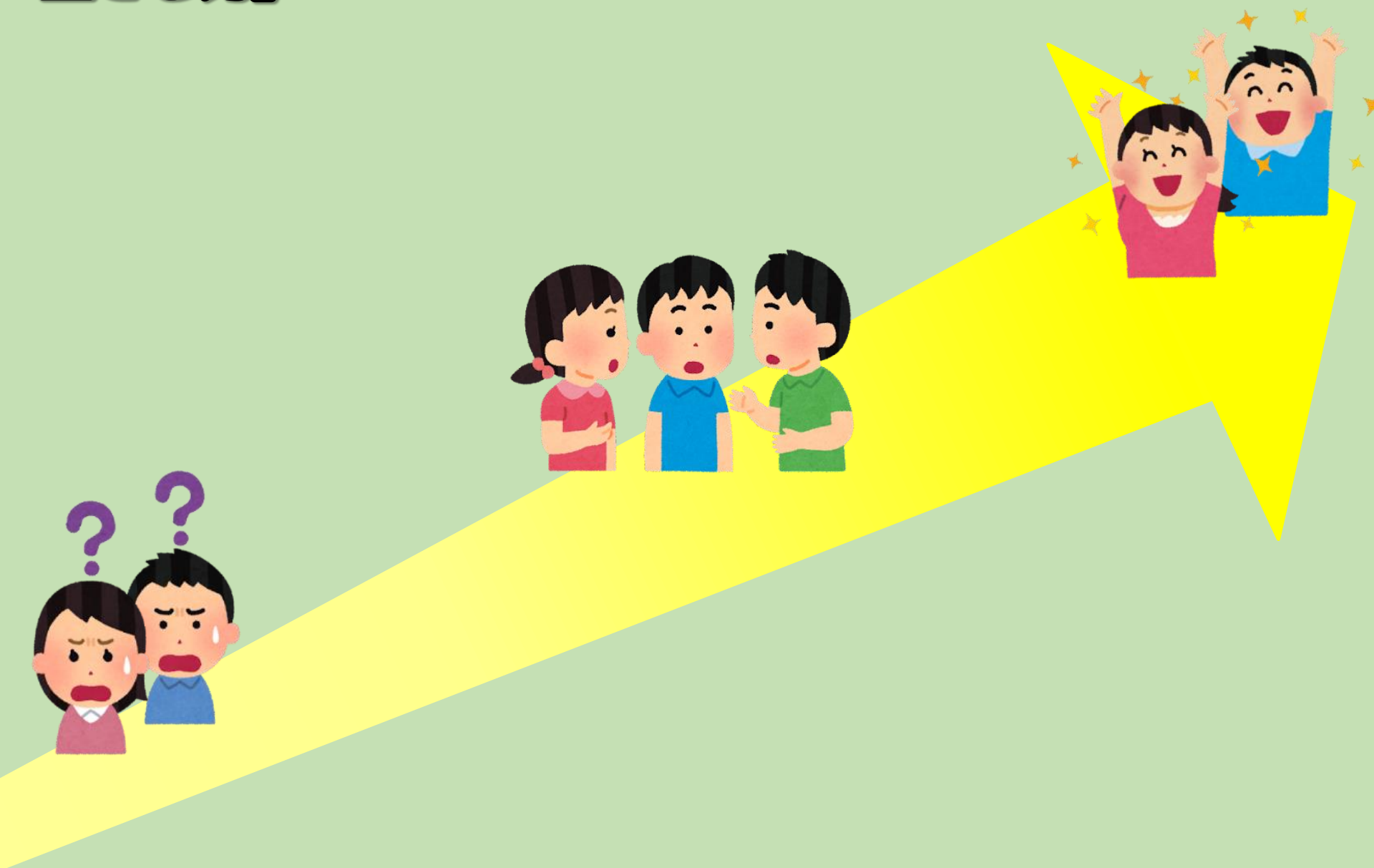


大分大学教育学部 附属特別支援学校
第十一次研究テーマ

『生きる力』を育む教育課程の編成

1. 研究テーマについて

「生きる力」 …… 児童生徒が生活上の課題を解決する力

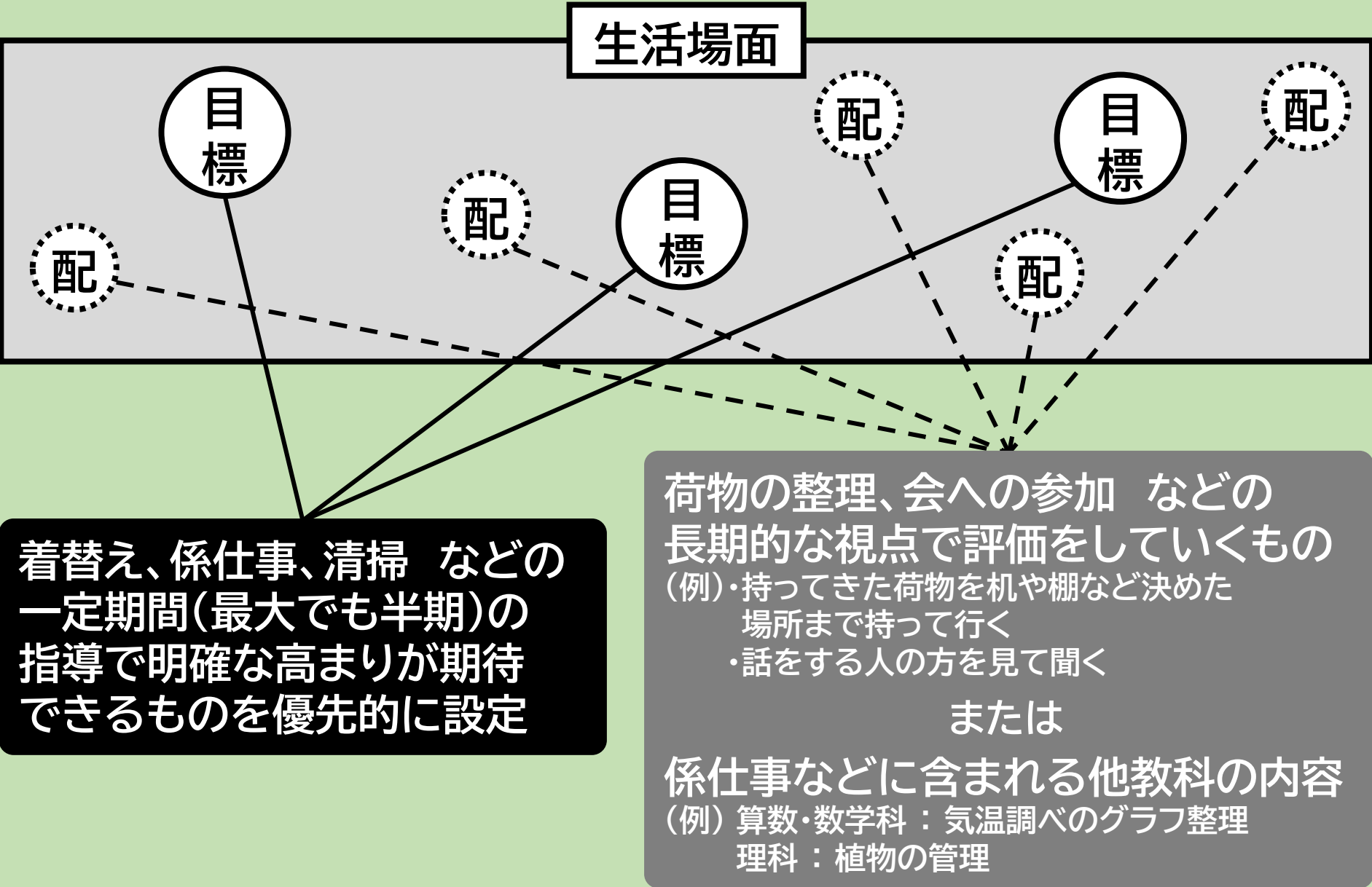


2. 第十一次研究の取組



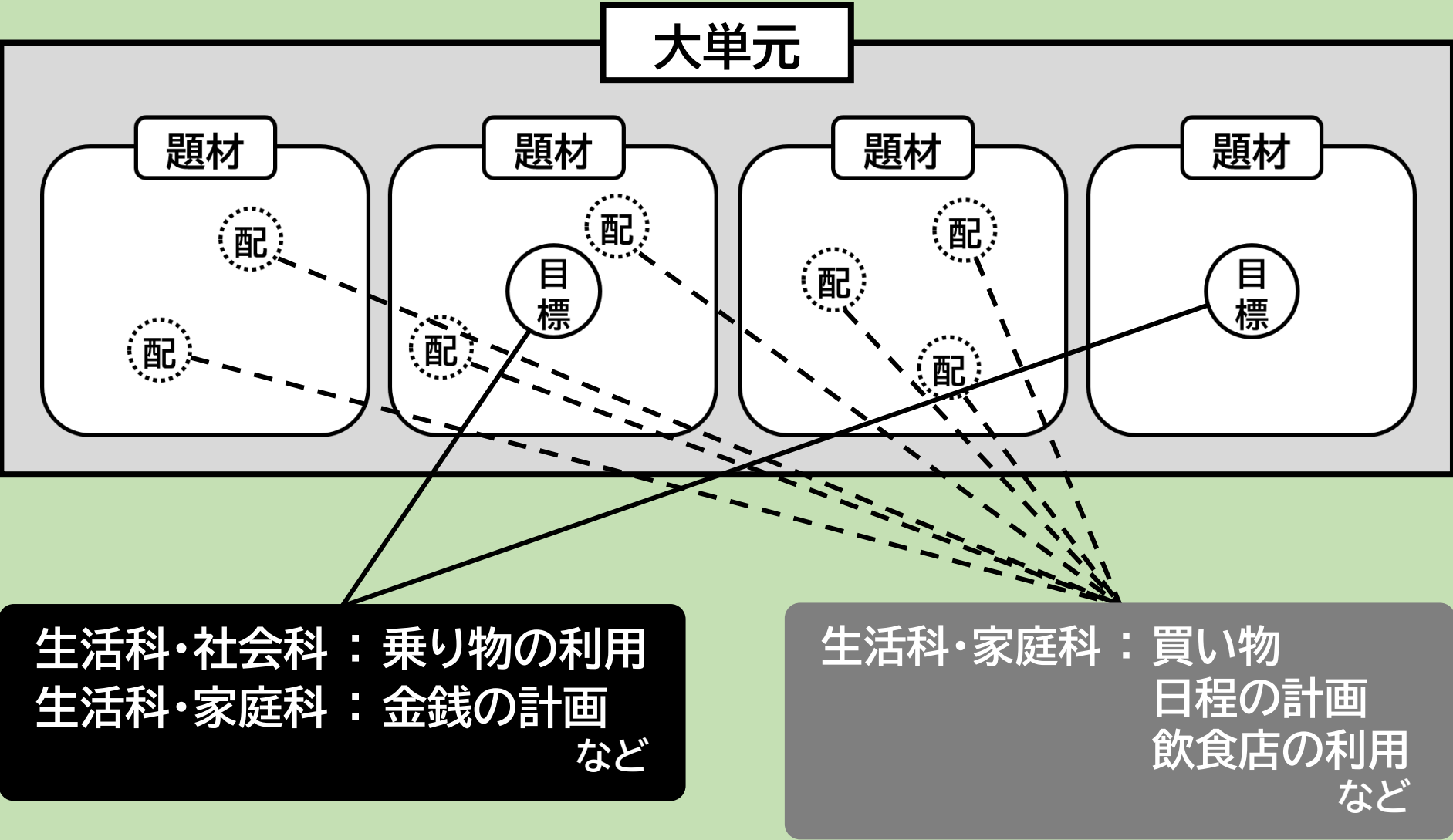
2. 第十一次研究の取組

日常生活の指導の内容構成のイメージ図



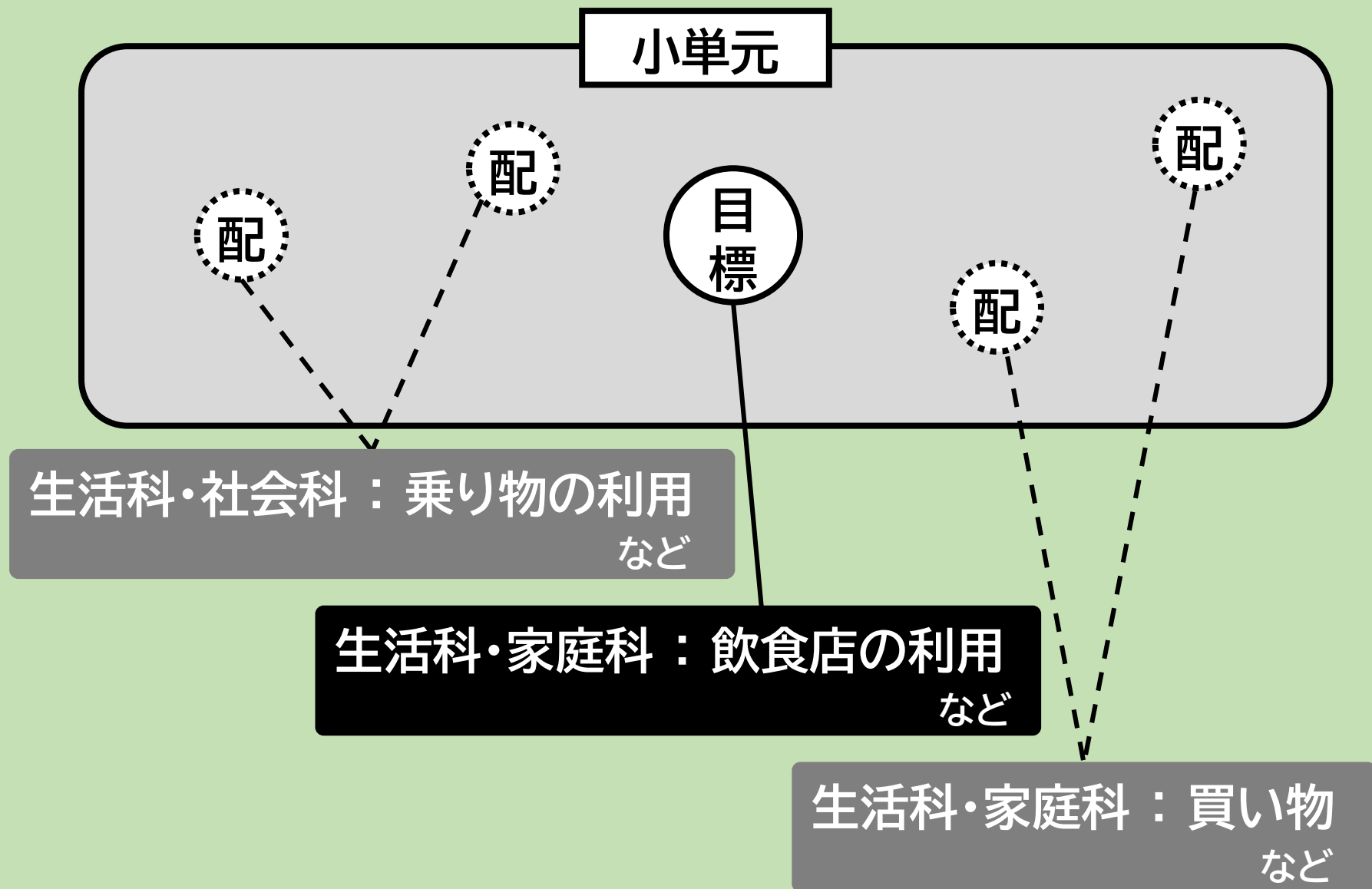
2. 第十一次研究の取組

生活単元学習の内容構成のイメージ図1(校外学習等)



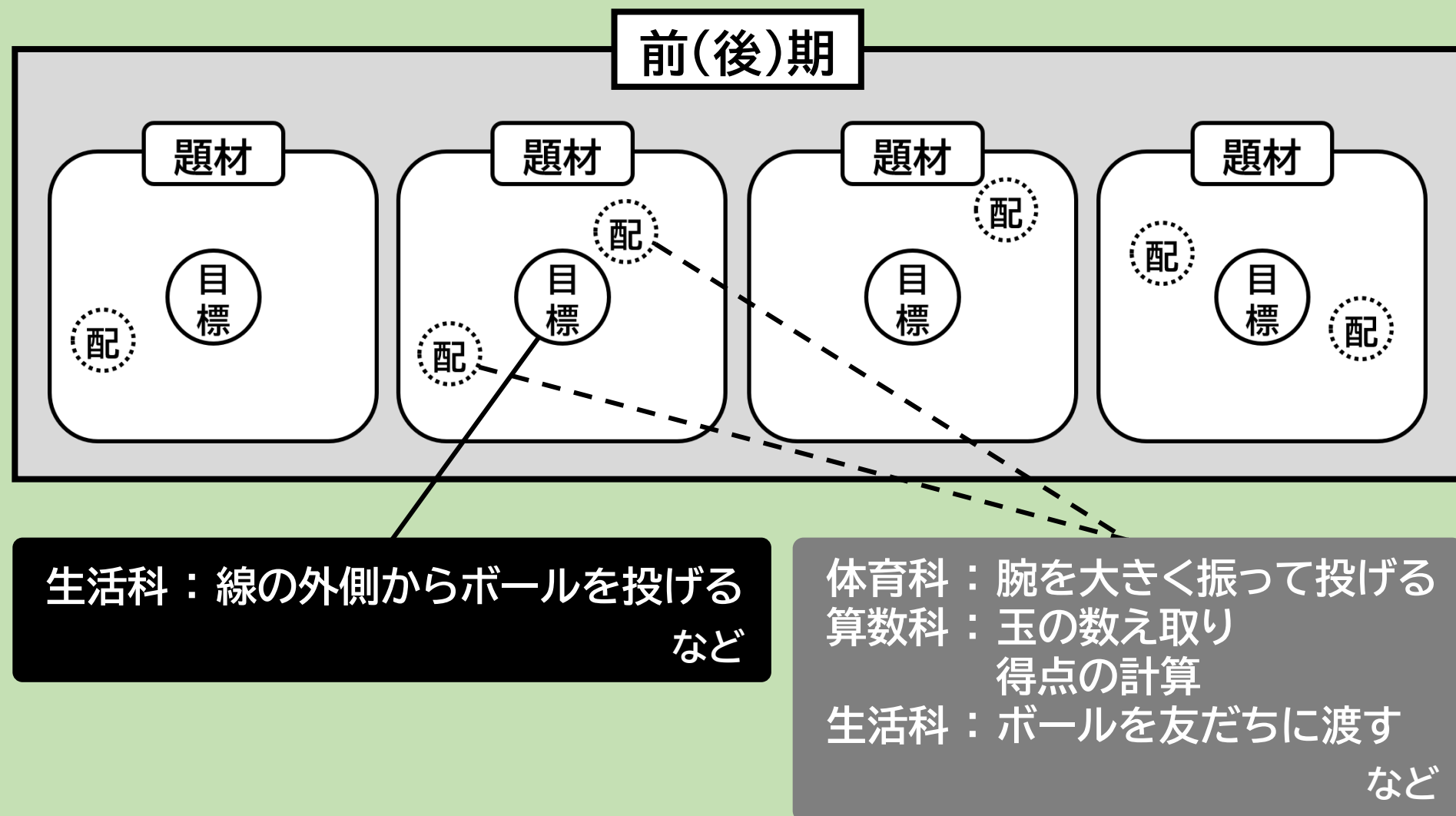
2. 第十一次研究の取組

生活単元学習の内容構成のイメージ図2（校外学習等）



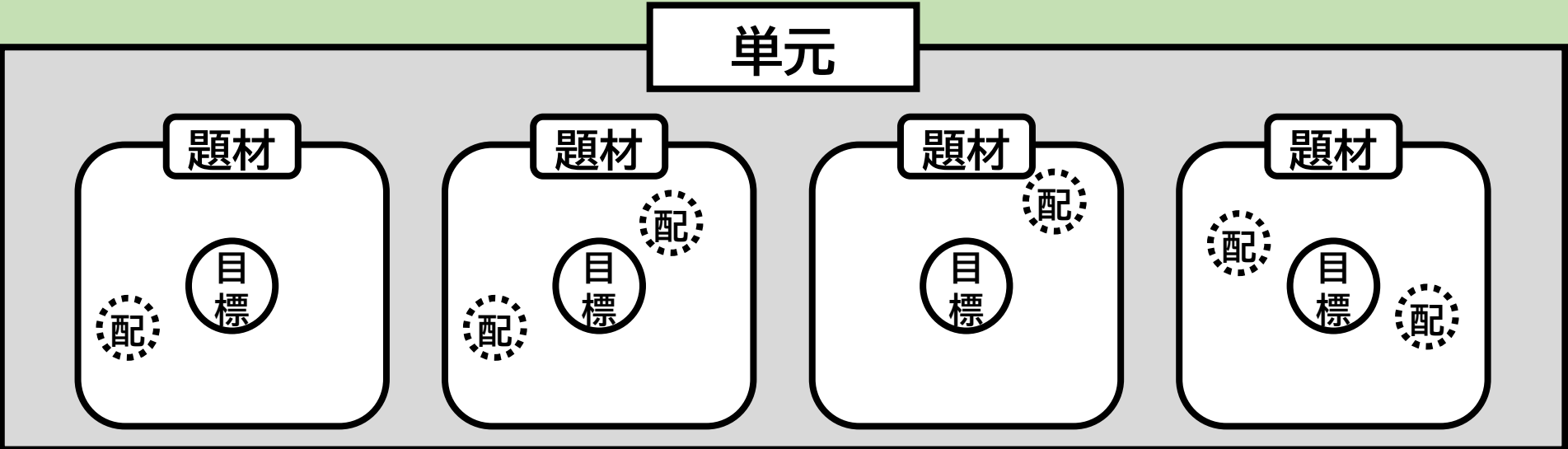
2. 第十一次研究の取組

遊びの指導の内容構成のイメージ図(玉入れゲーム)



2. 第十一次研究の取組

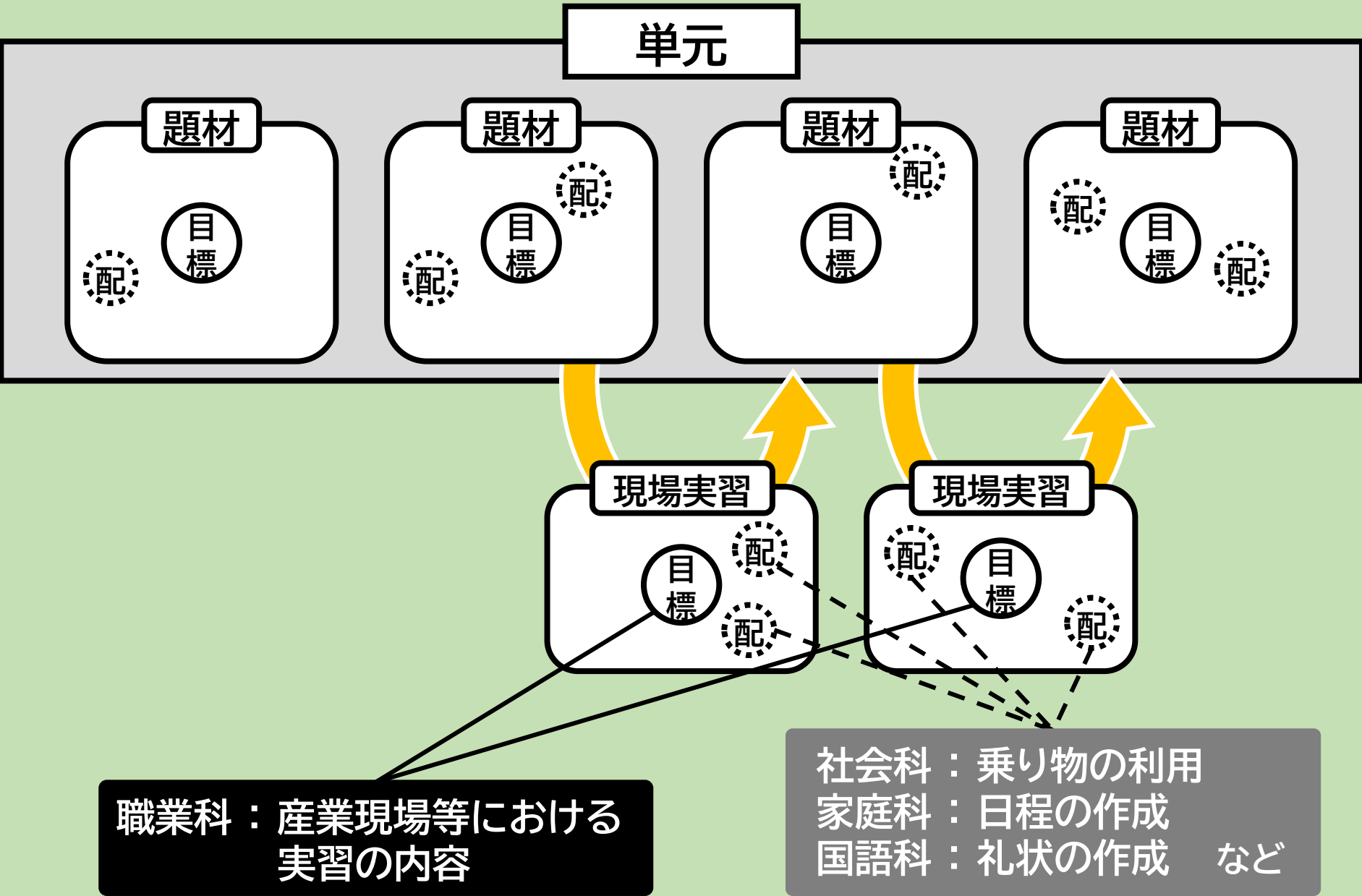
作業学習の内容構成のイメージ図(ものづくり)



	目標(例)	配慮的な内容(例)
題材①	職業科：必要な道具を準備して決めた位置に配置する	社会科：商品の流通 など
題材②	職業科：工程の作業内容や半製品の規格・良否を確かめる	国語科：相手や場面に応じた言葉遣い、注文書などの作成 数学科：時刻の読み取り、長さを測る、原価計算 など
題材③	職業科：決めた仕方で作業を進めたり、出来具合を見直し、必要に応じて修正したりする	国語科：相手や場面に応じた言葉遣い 数学科：出来高表の整理、金額に応じた金銭のやり取り 売上金の管理、時刻の読み取り など
題材④	職業科：優先して取り組む工程や各工程で仕上げる半製品の数を決め、すべて仕上げるまで作業する	国語科：相手や場面に応じた言葉遣い 数学科：出来高表の整理、金額に応じた金銭のやり取り 売上金の管理、時刻の読み取り など

2. 第十一次研究の取組

現場実習の内容構成と作業学習(ものづくり)との関係性のイメージ図



2. 第十一次研究の取組

令和6年度の取組



2. 第十一次研究の取組

令和6年度の取組

☆本と本校教育課程との対応表 せいかつ☆☆

大項目	小項目	学部	☆本と本校教育課程との対応表				備考	せいかつ☆☆					
			段階	重要度 (教科別・領域別)	指導の形態	学習活動または指導内容		合わせた指導 中心	合わせた指導 形態	教科等	扱い方(具体的)		
いっしょに あそぼう	みんなで ゆうぐあそび	小	低	①内容の重要度	②教育課程上の位置づけの有無	③教育課程上の位置づき方				④合わせた指導で扱うべき内容か	⑤教科別の指導で扱うべき内容か	⑥合わせた指導の中心が配慮か	⑦どのように扱えばよいか
			中										
			高										
		中	低										
			中										
			高										
		高	低										
			中										
			高										

2. 第十一次研究の取組

令和6年度の研究生産物

学習指導要領の各教科(生活科、社会科、理科、職業・家庭科)の内容の教育課程への位置づけ表

令和7年 3月4日(火) 版

【日常生活の指導】

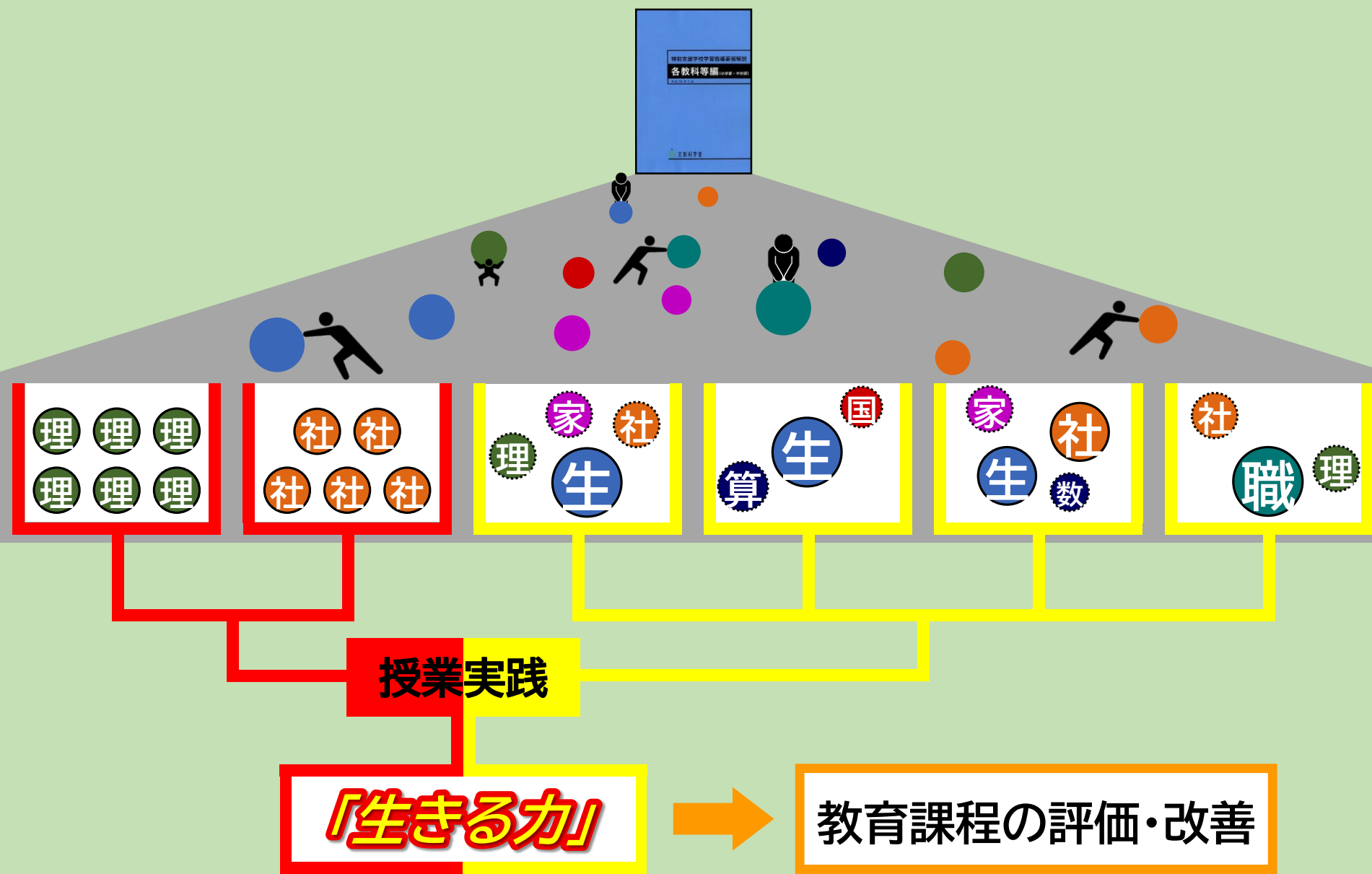
教科名	学習指導要領の段階	領域	内容	学部	子どもの段階	教育課程への位置づけ		
						中心内容	配慮的内容	取り扱い方
		ア 基本的生活習慣	知:(イ)簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身につけること。 思:(ア)簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動しようとする事。	小学部	低段階	○		朝の支度 帰りの支度 給食 休憩 その他
				中学部	低段階			
				高等部	低段階			
					低段階			

学習指導要領の各教科(生活科、社会科、理科、職業・家庭科)の内容の教育課程への位置づけ表

生活科	小1段階	関わり	思:(ア)教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようすること。		中段階		○	学校生活全般
				中学部	低段階			
		カ 役割	知:(イ)集団の中での役割に関心をもつこと。 思:(ア)身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする事。	小学部	低段階		○	学校生活全般
				中学部	低段階			
		キ 手伝い・仕事	知:(イ)簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。 思:(ア)身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする事。	小学部	低段階	○		係仕事 清掃
				中学部	低段階			
		ケ きまり	知:(イ)簡単なきまりについて関心をもつこと。 思:(ア)身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする事。	小学部	低段階	○	○	学校生活全般
				中学部	低段階			
				高等部	低段階			
		サ 生命・自然	知:(イ)身の回りの生命や自然について関心をもつこと。 思:(ア)身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする事。	小学部	低段階		○	学校生活全般
					中段階			

2. 第十一次研究の取組

第十一次研究の全体像



研究概要説明

終

